

がん研ボランティア 活動報告書 (2019)



がん研有明病院
CANCER INSTITUTE HOSPITAL

令和元年度 ボランティア活動 年間のご報告

日頃からがん研有明病院のボランティア活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。平成から令和へと移り変わった2019年、活動を発展させることができるようにと、初めて他院へ出向いてボランティア活動の見学会と交流会、交換体験会を開催しました。また、栄養管理部と協同活動の行事食カードづくりが大変好評となり、クリスマスの行事食カードづくりも追加、そして緩和ケア病棟では初めての試みとなりました遺族会「シオンの会」開催のサポートを行うなど新しいことに挑戦することができた一年でした。新しいメンバーは演奏ボランティアの方お一人をお迎えし、ボランティアわかばでは残念ながらメンバーに恵まれずでしたが、少人数でも一つひとつの活動には心を込めて丁寧に対応できたのではないかと思います。COVID-19の影響により、2020年2月27日より活動休止となっておりますが、また再開できる日を楽しみにして、ここに『活動報告書』をお届けいたします。

ボランティア支援室長よりご挨拶

世界が新型コロナウイルス感染症というまさに未曾有の経験をしており、未だゴールが見えない状況が続いています。2020年の2月までは、なんら問題なく継続できていたボランティア活動が、2月下旬から一時中断となり、もうすぐ4ヶ月が経過してしまいます。

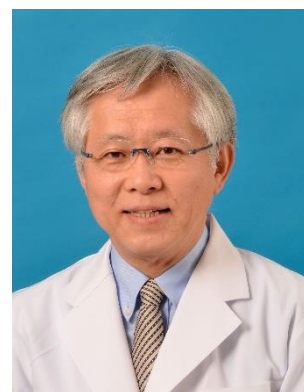
都内の多くの病院では、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるべく、病院自体の医療体制を大きく変更する必要性がありました。一時、東京都は収容ベッド数より感染患者数が上回ってしまい、本当に医療崩壊がおきてしまうのではと心配する時期もありましたが、第一波の大きな波はなんとか乗り越えることができました。今後、何回小波？が押し寄せてくるかは、これからの私たちの意識と新たな生活様式の導入にかかっています。

当院は大学病院のように多くの人工呼吸器もなければ感染症専用の病棟もなく、このコロナにどのように立ち向かうか思案した結果、がん診療の最後の砦となる英断をいたしました。今日までその任務を遂行しています。4月中頃に職員1名の陽性者が判明し、手術に関係する多くの医療従事者が濃厚接触者と判断されてしまい、1週間の手術制限を余儀なくされました。幸いにもその後は一人の陽性者も出ることなく、がん診療の最後の砦との気概をもって今日まで診療にあたるできています。

毎年、ボランティアの皆さんにお手伝いをしていただき、恒例のように行っていました七夕の開催も一時は危ぶまれ、ボランティアコーディネーターの柴田君と断腸の思いで中止の相談をした時期もありましたが、関係方面との相談やコロナ情勢の沈静化に加え、毎日開催されていたCOVID対策会議でも消毒面などの相談をさせていただき、「こんな時だからこそ開催しよう」ということに決定いたしました。その場にボランティアの皆さまにご参加いただけない可能性が高くとても残念でなりません。

今年度は、新職員が4名で例年のように兼務をしていただきます。みんなで頑張るしかありません。いずれご紹介できると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

緊急事態宣言や東京アラートが解除されましても病院は慎重です。未だ、病棟への面会は禁止されています。患者さんやそのご家族には、今も多くの不自由をおかけしています。ごく普通の面会が一日でも早くできる日が来ることを願っています。それまでの間、みなさんご辛抱いただきますようお願いいたします。



2020年6月
がん研有明病院 院長補佐兼中央手術部長
兼ボランティア支援室長 奥村 栄

1. コンサート活動のご報告

コンサート活動は、多くのアーティストの方から出演のお申し出をいただくホスピタルコンサートの他、演奏ボランティアとして登録している演奏メンバーによる BGM タイム、緩和ケア病棟でのミニコンサートと 3 タイプのコンサートを開催し、患者さんやご家族に生の演奏を楽しんでいただいております。コンサートは患者さんやご家族だけでなく、病院スタッフにとっても安らぎのひとつとなっているようで、ホスピタルコンサートや BGM タイムを開催していると、ホスピタルストリートに時折スタッフも立ち止まって、演奏に耳を傾けている光景も見られます。



また、コンサートの日にたまたま受診されたという患者さんやご家族ばかりではなく、開催日に合わせて外来受診の予約を取ってくださるという患者さんもいらっしゃるほど、コンサートを聴いて楽しめる皆さんのお姿を拝見したり、会場で皆さんからお話を伺ったりすると、「音楽の力」で沢山の皆さんの気持ちを和らげることができていること、このコンサート活動がどれほど多くの方のお役に立っているかを感じることができ、とても嬉しく思いました。

心に響く演奏をお届けすることができるよう、演奏者の方にも心身ともに元気な状態で演奏に臨んでいただくこと、当院のコンサート活動の趣旨をしっかりとご理解いただいた上で、活動に参加していただいておりますので、ホスピタルストリート出演者や演奏ボランティアの登録メンバーの方の選考は慎重に行わせていただいております。

今年度は有明移転当時から 1 階ホスピタルストリートに置かれているグランドピアノの大規模なメンテナンスを実施しました。これまでも年に数回はピアノの調律をして参りましたが、もう 40 年以上も昔のピアノで、演奏途中で鍵盤がはまり込んだり、調子が狂ったりということも多くなりましたので、演奏ボランティアの方のご紹介でヤマハ銀座店をご紹介いただき、ピアノを一度分解して、弦やハンマーなどの部品を修理・交換して再度組み立て、新品の時に近い性能や外観に修復する「オーバーホール」を実施していただきました。こちらの修理代は非常に高額で 100 万円近くの費用がかかることから、ボランティア支援室の活動予算ではとても支払うことができず、ここ数年は小規模メンテナンスを繰り返しておりましたが、コンサート活動を大事に考えてくださる室長の奥村先生と共に経営本部の職員とも予算申請の打ち合わせを繰り返し、ようやく 2019 年度の病院予算で支出が可能となりました。

オーバーホール後、演奏者の皆さんだけでなく日頃からコンサートサポートをしているボランティアわかばのメンバーでもピアノの音色が変わったとわかるほど！ピアノの調律師さんのお話しでは、このグランドピアノはまだまだ使えるとのこと、定期的にメンテナンスを行うことで、永年使用できることもわかり、このピアノを寄贈してくださった方への感謝の気持ちも込めて、未永く大切に使用させていただきたいと思いました。



ホスピタルコンサート

【開催日時】2ヶ月に1回（17:00～17:40）

【場 所】1階ホスピタルストリート
（100周年コーナー）

【開催回数】4回（5月・8月・10月・1月）

【対 象】院内のどなたでも



出演者の公募をしたところ、6組の募集に対して22組ものご応募があり、その中から選考させていただいたアーティストの方にご出演いただきました。出演者さまの急なご都合により12月のクリスマスコンサートの開催と、COVID-19の影響で3月のホスピタルコンサートは開催できず、年間で4回のみ開催となりましたが、2020年の幕明けはチェリストの溝口 肇さんにお越しいただき、華やかなチェロの演奏で院内を明るく温かな雰囲気包んでいただきました。



毎回沢山の方にお越しいただくこのホスピタルコンサートは、入院患者さんはお夕食前に病棟から1階のホスピタルストリートまで降りてきてくださり、外来受診の患者さんも検査や診察を終えてお帰りになる前にと立ち寄ってくださり、夕暮れどきのひとときを楽しんでくださっています。座席は入院患者さんを前方の優先席にご案内し、輸液ポンプを使用される方、車椅子の方、そして付き添いの方のお席を設けるなど、配席にも工夫を凝らしています。

コンサートのはじめには、病院を代表して病院長や看護部長、院長補佐の先生からご挨拶をいただきますが、このホスピタルコンサートは2カ月に1回、プロとして活躍されるアーティストの方にお越しいただいて、がん治療を受けられる患者さんやご家族のために、全くのボランティアによる演奏であること、また病院内でエメラルドグリーンのエプロン姿で様々な活動をしているボランティアわかばのメンバーの協力で、職員と一緒に運営する手作りのコンサートであることを会場にお越しの方にお伝えしています。コンサートの運営は安全・安心を第一に心掛けて開催し、ボランティア支援室の兼務職員を中心に施設管理課には音響設備のセッティングを、看護部からは毎回各部署から当番制で看護師3名、看護助手5名が応援に入り、体調が優れない患者さんがいらした場合には救急対応できるように体制を整えています。また、ボランティアわかばのメンバーも会場のセッティングやプログラム配布、座席の誘導を行いながら、演奏も楽しんでいきます。

そして、会場を彩りあるお花で飾ってくださるのは、帝都典礼さまと平安祭典さまの2社にお力をお借りしています。コンサートの最後には出演者への花束も贈呈していますが、このお花もご好意で用意していただいています。



 風呂本佳苗ピアノコンサート～春の調べ～ [2019年5月17日開催]

【出演者】風呂本佳苗さま（ピアノ）



今年度初、令和初のホスピタルコンサートは、英国王立音楽院ご出身で日本、イギリスを始め、ヨーロッパや東南アジアでも演奏活動をされているピアニストの風呂本佳苗さんにご出演いただきました。コンサートにご出演いただける演奏家さんを募集した際、出演を希望される時期に合わせて3パターンの演奏プログラムを丁寧にご用意くださり、ぜひがん研で演奏していただきたいと出演をお願いしたところ、大変快くお引き受けくださいました。今回は開催月に合わせて様々な作曲家の「春」の演奏を届けてくださり、クラシックが難しいという方にもわかりやすいように、曲のイメージがふくらむようにと詩の朗読やそれぞれの曲の解説を演奏前にしていただき、会場にお越しの患者さんもお家族も聴き入っていらっしやる様子でした。

日本の曲、春のメドレーではピアノの演奏に合わせて口ずさむ方もいらっしやるほどで、美しい演奏に心が洗われるひとときとなりました。素敵な演奏を届けてくださった風呂本さん、本当にありがとうございました。



 ～hana コンサート～ [2019年8月8日開催]

【出演者】小棚木恵美子さま（オカリナ）・五十川慶子さま（ピアノ）



大変暑いこの夏、さわやかな浴衣姿でお越しくくださったのはオカリナとピアノのユニット「hana」の小棚木恵美子さんと五十川慶子さんのお二人です。オカリナの演奏は、このホスピタルコンサートでは初めてのことで、どのような楽器かとても楽しみにして下さっていた患者さんも多く、会場準備の段階から多くの患者さんやご家族がお越しくさせていただきました。オカリナは様々な大きさがあるようでサイズが大きいものは低音、小さいものは高音が出るというご説明をいただき、曲に合わせて大小のオカリナで様々な音色を聴かせてくださいました。

“hanaと一緒に歌いましょう”のコーナーも設けて素敵な歌詞カードもご準備くださり、お二人の奏でるオカリナとピアノの演奏で会場の皆さんと3曲合唱することができました。急遽入院患者さんからアンコールのリクエストも入り、譜面がないにも関わらず快く引き受けくださり、患者さんやご家族、職員も一緒になって歌い、温かな雰囲気になりました。素敵な時間を届けてくださり、ありがとうございました。



ソプラノ&ピアノのコンサート

[2019年10月18日開催]

【出演者】石原理恵さま（ソプラノ）・田村聡子さま（ピアノ）



10月はソプラノ歌手の石原理恵さんとピアニストの田村聡子さんのお二人をお招きして、ソプラノとピアノのコンサートを開催しました。コンサート冒頭から華麗な歌声とピアノの見事な掛け合いを聴かせてくださいました。ソプラノの石原さんは日本の楽曲だけでなく、ドイツ語・フランス語の楽曲も歌われ、次々と素敵な歌声を披露してください、ピアノの田村さんは、モーツァルト・リスト・ブラームスが作曲したクラシックの名曲を演奏してくださいました。中でもリスト作曲「愛の夢第3番」は、フィギュアスケートで活躍した浅田真央さんが試合で使用した曲。馴染みのある曲に会場の皆さんも胸を打たれていらっしゃる様子でした。アンコール曲を含め全10曲という盛りだくさんの構成で、楽しい時間はあっという間に過ぎ、患者さんのお顔も笑顔があふれていらっしゃいました。台風で大きな被害も出ている地域もあり、暗いニュースが多い中、お二人の演奏で皆さんの心も明るくしていただいたように思います。素晴らしいひとときをありがとうございました。

溝口 肇チェロコンサート

[2020年1月23日開催]

【出演者】溝口 肇さま（チェロ）・山口ちなみさま（ピアノ）



6回目のご出演となります『世界の車窓から』でお馴染みのチェリスト溝口肇さまと、今回初出演のピアニストの山口ちなみさまをお迎えしました。沢山の方にご来場いただき、座席もすぐに満席、立ち見や2階からご覧になる方もいらっしゃるほどでした。日本の四季の美しさを表現した『Season's Greetings』から始まり、溝口さんがチェロを始めるきっかけとなられた「鳥の歌（カタロニア民謡）」を披露してください、溝口さんが使用されているチェロは300年ほど前にイタリアで生まれ、「アンジェラ」という愛称がついている、というお話も聞かせてくださったり、あっという間に溝口さんの世界に引き込まれました。最後はあの名曲「世界の車窓から」のテーマ曲、普段テレビで流れるのはショートバージョンとのことですが、今回はフルバージョンでの演奏を聴かせてくださり、患者さんやご家族だけでなく、職員も癒していただきました。病院にいるとは思えないようなひとときだったという嬉しいお声もいただきました。2020年の幕開きにぴったりのコンサートでした！！

BGM タイム

- 【開催日時】 火曜日 (14:00~14:30)
- 【場 所】 1 階ホスピタルストリート
- 【開催回数】 18 回
- 【対 象】 患者さん、ご家族、面会の方



BGM タイムは、まだ外来診療で混み合っている中、検査や診察の待ち時間にお疲れになられた患者さんやご家族にも気軽に音楽を楽しんでいただけるようにとコンサートではなくあえて“BGM タイム”という名称で演奏しています。BGM タイムでは「皆さんも一緒に！」と会場の皆さんとの合唱するのも好評で、声を出して歌うことで元気が出る！という嬉しいご意見もいただきました。演奏ボランティアのメンバーもどんな曲が好まれるか、歌いやすいかなど色々なアイデアを出してくれています。尚、グランドピアノのオーバーホールのため、7月の活動はお休みさせていただきました。

緩和ケア病棟ミニコンサート

- 【開催日時】 火曜日 (14:45~15:15)
- 【場 所】 12 東緩和ケア病棟デイルーム
- 【開催回数】 20 回
- 【対 象】 緩和ケア病棟の患者さん、ご家族、面会の方



病院最上階にある緩和ケア病棟でのミニコンサートは、東京湾が見渡せるデイルームで行います。緩和ケア病棟専用のデイルームでの開催のため、BGM タイムとは全く異なる雰囲気での演奏になりますが、演奏ボランティアのメンバーもその時々様子で演奏内容を変更したり、患者さんのリクエストにお応えしながら演奏しています。お部屋から車椅子やベッドのまま聴きに来てくださる患者さん、看取りに近い状況の患者さんやご家族も聴きにこられますが、「聴覚は最後まで残る感覚」と言われますので、この演奏で患者さんご家族にとって大切な時間をお過ごしいただく、そのお手伝いをさせていただくことができればと思います。

演奏ボランティアメンバーの紹介

BGM タイムとミニコンサートには、8名の演奏ボランティアの方にご協力いただきました。永年活動を続けてくださった、石井さんご夫妻と長尾さんファミリーの皆さんが2019年度にて退会されました。長い間、ありがとうございました。温かな演奏を届けられるよう、残されたメンバーの皆さんと共に今後も演奏ボランティアの心を受け継いでいきたいと思っております。



(テノール)	(ピアノ)	(ソプラノ)	(ピアノ)	(ソプラノ)	(ピアノ)	(ソプラノ)	(ピアノ)
石井 修	石井英子	岩本久美	清水千裕	長尾篤子	長尾博子	長尾良子	丸山ひろ子

2. ボランティアわかばの活動のご報告

がん研のボランティア活動の中心となっている「わかば」のメンバーは、男性：4名、女性：29名、総勢33名のメンバーでこの一年、活動を行いました。グループ活動の他、曜日や活動内容に関わらずにメンバー総出で取り組む室内作業やイベント活動など多岐にわたります。また、(★)の活動については、患者さんが参加される活動で開催時間と場所を約束していますので、ボランティアメンバーが欠席すると開催できません。楽しみに待っていてくださる患者さんやご家族の期待を裏切ることのないように、出席メンバー同志で連絡を取り合いスケジュール調整するなど、自主的に活動をお願いしています。

【活動日】 平日/月～金曜日（土日祝祭日・病院休診日は活動OFF）

【活動時間】（午前）10:00～12:00（午後）13:00～16:00（※各10分前集合）

区分	活動	活動内容	活動日	活動時間	人数
わかばのメンバーが中心の活動	図書	病棟デイルームの図書整理、消毒、清掃、配本作業、寄贈本処理など	月～金曜日	10:00～12:00	2～4名
		外来図書ワゴンの図書整理、消毒、清掃、配本作業、寄贈本処理など	月～金曜日	13:00～15:00	2～3名
	(★) 折り紙の会	折り紙の作品作り、材料準備など	木曜日	13:00～16:00	3～4名
	ボランティア室内作業	①事務作業（電話対応、来訪者対応、問い合わせ対応、PC作業） ②エプロンクリーニング、アイロンかけ ③図書カバーかけ、カバーかけ前処理、寄贈本仕分け作業 ④ソーイング布製品の作成、縫製作業、ストック確認、製品払出し、尿瓶キャップ作り	月～金曜日	13:00～16:00	1～2名
外来医事課のサポート	外来案内	受付再来機前、自動精算機前のご案内、 面会受付のご案内、院内呼出PHSの消毒、周辺の清掃作業など	月～金曜日	10:00～12:00	1～2名
			月～金曜日	13:00～15:00	1～2名
緩和ケア病棟のサポート	(★) お茶会	緩和ケア病棟でのティーサービスなど（※BGM/ミニコンサートも含む）	火曜日	13:00～16:00	3～4名
栄養管理部のサポート	BDカードづくり	入院中にお誕生日をお迎えになる患者さんへのお誕生日カードを作成、材料準備、デザイン考案など	金曜日	13:00～16:00	2～3名
病院行事のサポート	(★) コンサート	BGMタイム(※お茶会に含む)	火曜日	13:00～16:00	1～2名
		ミニコンサート(※お茶会に含む)	火曜日	13:00～16:00	1～2名
		ホスピタルコンサート	2ヶ月に1回	16:00～18:00	3名以上
	イベント	各種イベント（ひな祭り・五月人形・七夕・クリスマス・SHOPなど）	(季節ごと)	(午後)	3名以上

メンバーの活動状況

①曜日別登録人数：曜日を決めて参加する方がほとんどですが、フリーの方にはできるだけ人数が不足している日時にご参加いただけるよう協力をお願いしています。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	フリー
1名	10名	5名	6名	4名	7名

②登録者年代：平均年齢60.1歳（最年少：43歳／最高齢：79歳）

年代	40代	50代	60代	70代
人数	5名	11名	14名	3名

③活動実績：最も多く活動にご参加いただいた方の参加日数（64日）、参加時間数（331時間）でした。

月	活動実日数	活動延人数	活動総時間数	平均活動時間数	実活動者数	1日平均活動者数	活動率(%)
計/平均	210	868	3,500:40	4:00	27.6	4.14	83.75

※COVID-19の影響により、2020年2月27日から活動休止中

新人ボランティア募集・説明会・面談



例年同様に新人ボランティアのメンバー募集をし、5月23日に説明会を開催しましたが、応募は3名、説明会欠席や面談当日キャンセルもあり、新しいメンバーをお迎えすることができませんでした。

2020年には東京オリンピックの開催も予定されていたため、こちらのボランティアに応募される方が多く、江東区のボランティアセンターや他院からの情報でも病院ボランティアの募集は厳しい状況です。

新人ボランティアオリエンテーション・ボランティア全体研修会



ボランティアわかばの新人メンバーは0名となりましたが、演奏ボランティアで新しい方をお迎えし、ボランティア支援室に兼務となった新入職員と共に、6月17日にオリエンテーションを行いました。午後からは一年に一度の全体研修会で、ボランティアの皆さんにお願いしたいこと、活動へ期待することなど病院としての方針を病院長や看護部長から直接



お伝えし、活動ルールや変更点についても担当部署のスタッフが直接指導する場です。研修会後にはメンバー同志の情報交換もできる機会を設けていましたが、先輩ボランティアの参加が少なく、この日参加したメンバーからも残念だ…、という声がありました。意見交換したい、というご意見も受けての開催ですので、ぜひ次回は皆さんにご参加いただきたいです。

図書（活動場所：各階デイルーム/外来フロア）



図書の寄贈は326名の方から5,058冊、前年度から募金課による「古本募金」の活動がスタートしましたが、ボランティア図書への寄贈数が1,000冊ほど減少したため、募金課に送付された古本で活用できるものを引き取っています。また、8階のマンガ本コーナーにある『王家の紋章』のシリーズ続編が出版されたとのことで、入院患者さんが嬉しいお手紙と共に続きの新巻を寄贈してくださいました。病棟図書は返却コーナー



に戻されただけでも22,479冊の貸出数となりましたが、直接本棚に返される場合もあり、年に3回の5月の連休、夏休み、冬休み明けには本棚やすべての本の消毒作業もメンバー総出で実施しました。外来図書は、新棟地下1階放射線治療部に設置の図書ワゴンがほとんど利用されず、配置場所を変更したい、という意見が出されましたので調整することになりました。

外来案内（活動場所：再来受付機・自動精算機前）

※医事課と協力



活動日によっては人数が少ないため、メンバーが誰もいない場合もありますが、火・水曜日のメンバーの方を中心に4~5名のメンバーの方が活動しています。2019年10月より、国際医療課にて、外国人患者さんやご家族の対応をする“ランゲージサポーター”が導入され、外国人患者さんへの対応の負担は減りましたが、様々な状況の患者さんがお越しになり、色々な質問を受けるため、担当するボランティアも院内の情報はしっかりと把握して活動に臨む必要があります。

お茶会（活動場所：12階東緩和ケア病棟）

※緩和ケア病棟・栄養管理部と協力



年間 18 回開催し、140 名の患者さんと 141 名のご家族や面会の方にてサービスを行いました。病室に直接お伺いしてお茶のご希望やミニコンサートの開催案内をするので、かなりの緊張感がありますが、温かな雰囲気です丁寧な対応を心がけています。病棟での季節のイベントでもスタッフを陰ながら支えています。ひなまつりのお茶会は残念ながら開催できずでしたが、準備した“ひなあられ”は、患者さんにお渡ししました。



折り紙を楽しむ会（活動場所：8F デイルーム）



年間で 44 回開催し、合計 198 名の患者さんやご家族にご参加いただきました。一度参加された方がリピーターとなってくださったり、入院中の患者さんが同じお部屋の患者さんを誘って参加されたりと折り紙で色々な作品をつくりながら、おしゃべりにも花が咲き、午後のひととき、心地よく楽しい時間をお過ごしいただいています。担当メンバーも高度な折り方の作品をどんどんマスターして、折り紙の活動以外にも七夕の飾りやカードづくりでも素敵な作品を次々作ってくれています。

お誕生日カードづくり（活動場所：ボランティア室）

※栄養管理部と協力



今回のデザインは花束をイメージしたカードです。入院中にお誕生日を迎える患者さんに、お誕生日当日の朝食と一緒にカードをプレゼントしています。レース柄のコースターを折った花束のラッピングと、お花はクラフトパンチで一枚ずつ型抜きした細かいパーツを重ね合わせていくので根気がいりますが、丁寧に作業しています。がん研ではお花の持ち込みができませんので、このカードでお誕生日を少しでも明るい気持ちでお過ごしいただけることを願っています。

行事食カードづくり（活動場所：ボランティア室）

※栄養管理部と協力



入院患者さんにも美味しいと評判のお食事、行事に合わせて毎月素敵なメニューを提供していますので、お食事に合わせて行事食カードを作っていますが、このカードが患者さんだけでなく栄養士にも好評で、七夕とお正月に加えて今回はクリスマス用にもカードを作りました。お正月カードは絵馬風で、その年の干支をデザインにして 12 年間作ってみては？というアイデアも出ていますが、お正月に初詣に行けない患者さんのために、このカードに願いごとを書いていただくのもよいかと、新しいイベントの企画もしています。



（七夕カード）

（クリスマスカード）

（お正月カード）

室内作業（活動場所：ボランティア室）



ボランティア室では活動の準備、備品のチェックやパソコンへのデータ入力もしていますが、多くのメンバーが作業しているのは図書の整理や仕分け、活用する図書の処理、カバーかけ、落丁した本の修理などです。カバーかけは誰でも作業できるように手順書を作成してあり、新人研修でも必ず全員に教えてきましたが、ラベルシールの貼る位置ハンコを押す位置など、統一されていないことが多くなり、“基本に戻ろう！”とお願いしました。また、手作りしている尿瓶キャップは年間で1,307個を払い出し、ミシンができる方には尿パックカバーづくりをお願いして、32枚を払い出ししました。その他、特注品も3件対応しました。

イベント（活動場所：ホスピタルストリート&ボランティア室等）

【五月人形の飾付】4月16日～5月7日



ボランティアわかばの北嶋さんより、五月人形の三段飾りを寄贈していただきました。ホスピタルストリートに展示しましたが、立派な五月人形を立ち止まってご覧になる患者さんやご家族が大勢でした。「鯉のぼりは飾らないの？」というお問い合わせをいただきましたが、屋内で鯉のぼりを飾るのにはどうしたら良いか…今後、もし鯉のぼりの寄贈があった時に備えて、飾付の方法を検討しておきたいと思えます。

【七夕笹の飾付／短冊のお焚き上げ】7月1日～7月8日／8月8日



今回から笹を設置できる場所がヶ所のみとなりましたが、ホスピタルストリート中央に放射線状に広がるように笹と短冊を結びつけるコーナーの飾付をしました。結ばれた短冊は、合計1,541枚、皆さんからの沢山の方の思いが沢山詰まっていました。旧暦の七夕に合わせて8月8日にがん研の氏神様でもある門前仲町の富岡八幡宮にお焚き上げを依頼してきました。

【クリスマスカードづくり】9月上旬～12月初旬



スノーマンのクリスマスカードは、ボランティアわかばの高橋さんのアイデアによるデザインです。クラフトパンチで型抜きした手袋のパーツが大量にあり、何とか有効活用できないかと考えてくれました。カードの左側は佐野病院長、右側は担当看護師がメッセージを入れて、クリスマスに入院中の患者さんへプレゼントしました。

【緩和ケア病棟シオンの会のサポート】12月3日



緩和ケア病棟主催で、ご家族を看取られて1年以内のご遺族の集いである「シオンの会」が初めて開催され、お茶会メンバーによるティーサービスと



演奏ボランティアでピアニスト／音楽療法士の丸山さんがコンサートでお手伝いさせていただきました。がん専門病院としてグリーフケアがいかに大切であるかを改めて感じました。

【ボランティアチャリティーSHOPの開催】12月6日



10 回目の開催となりましたが、SHOP 当日のメンバーは集まったものの、出品する作品作りを担うメンバーがなかなか集まらず、職員に呼びかけて出品数は何とか 1,000 点を越えました。売上、販売数、来客数が例年より少なかったですが、今回初めて募金コーナーには募金課のスタッフが入り、SHOP でのお買い物に加えて、募金にも沢山の方にご協力いただくことができました。ありがとうございました！！

*** 売上金 : 256,700 円 * 募金箱 : 65,429 円 * 販売数 : 695 点 * 来客数 : 207 名**

【サンタクロース病室訪問】12月24日



年内最終行事となったクリスマスイブ、サンタクロース病室訪問では、院長補佐の渡邊雅之先生に初めてサンタさんになっていただきました。4 人のサンタと 8 人のトナカイが病棟にお邪魔して病棟看護師と一緒に各病室を訪問し、クリスマスを楽しくお過ごしいただけるようにと

プレゼントをお渡ししました。プレゼントはお薬手帳が入るサイズのポーチで、いくつかの候補の中からわかばのメンバーによる投票で決まりました。

【お正月破魔矢の飾付】12月26日～1月7日



今回初めてお正月に向けて「破魔矢」を飾付しました。五月人形と同じく、こちらボランティアわかばの北嶋さんより寄贈していただきましたが、クリスマスイベントの余韻も残る中、クリスマスの翌日には飾付をして、お正月休み明けまでのひととき、病院正面玄関に飾られている大きな門松と共に、来院される方、入院されている方をひっそりとお迎えしました。ちょうどボランティア活動の冬休み期間中で、メンバーの皆さんにもご覧いただけませんでしたので、こちらでご紹介いたします。

【ひな人形飾付】2月20日～3月4日



毎年、飾付しているひな人形の七段飾りですが、お道具などだいぶ劣化が進んでしまったものもあり、どうしようかと悩んでいたところ、飾付をしたメンバーの土屋さんが紅白饅頭を絵の具できれいに塗り直してくれて、三人官女の横で再び鮮やかに飾付できました。ちょうどこの頃から、COVID-19の影響がはじめてしまい、活動が休止、ひな人形の片付けはボランティア支援室兼務の若手職員と協力して、無事に済ませることができました。

交流会

ボランティア同志、そして職員とも交流の場を持てるようにと年 3 回、交流会を開催しました。七夕短冊のお焚きあげの後に暑気払い、年内の終活動日にはクリスマス会、忘年会には病院長やフォトセンターや施設管理課の職員も参加して、美味しいお料理とお酒で楽しい時間となりました。



(暑気払い)



(クリスマス会)



(忘年会)

各曜日の参加メンバーからのメッセージ

わかばの活動では活動する曜日・時間帯・活動内容を決めて参加していただいています。永年活動に参加していても、同じ活動をしていても、曜日が違うとなかなか普段顔を合わせる機会も少ないというお声もあり、私が着任した10年前にボランティア室に「メンバーズボード」を作成して、活動メンバーの皆さんの顔写真を曜日ごとにわけて掲示しています。各曜日を代表してメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。



【月曜日】 平間若菜さん : 2009年から参加



私は主に月曜日の午前中、図書活動や外来案内のお手伝いをさせていただいています。月曜日は休み明けということで、外来者数が多く、図書本の返却BOXが山になるフロアもあり「人数が必要」と聞いており、また自分の都合にも合致し、この曜日に。週明けは忙しいと避けられ気味？で、独り淋しく活動することも多いのですが、逆に『週の初めの月曜日』だからいいのです！いつもより早起きをして病院へGO。朝の挨拶を済ませて、エプロンのクリーニング出しに地下への階段上り下り。そして午前中2時間集中。その週はこれで気分も身体もハイペースをキープ。是非、月曜日と一緒に活動しましょう！

10年程わかばに通っていますが「患者さんに寄り添う」ことは簡単ではないと常に感じています。患者さん一人一人に合う接し方や言葉かけが必要で、実は今でも自信がなく、正直いつも不安で参加しています。そんな中で心掛ける事は①誠実に②穏やかな心で③患者さんの気持ちに合わせて自分の目線を変えよう、ということ。嬉しそうな顔をされていたら一緒に喜び、不安そうなら同じ高さまで気持ちをそっと下ろし、寄り添う努力をする。本を楽しそうに吟味する方、久しぶりの検診で端末の使い方を忘れたと照れくさそうに話す方（毎日恐怖と不安で押し潰される思いの中、無事に過ごされてきたのだと思います）、そういう方々を間近にみられる事がとても嬉しく、実は私の方が元気をいただいている事ばかり。ですが、もし少しでも力になれているのだとしたら、細くとももう少し続けてさせていただこう、そうわかばに来るたびに思うのです。

【火曜日】 北嶋慶子さん : 2015年から参加



私は、定年退職したら何か社会の為に働きたいと思っていた時、ご縁がありがん研ボランティアで活動するようになりました。丸5年が過ぎ、毎週火曜日の午前中、先輩ボランティアさんとワゴンに用具を積んで、各病棟の図書整理、本のアルコール消毒や外来案内の受付再来機、自動精算機の使い方のお手伝い、受信機のアルコール消毒、院内案内なども行っています。特に図書の整理は、真冬でも汗びっしょりになり、活動していると、患者さんに「ごくろうさま」「いつもありがとう」と言葉をかけていただき、その言葉がはげみになり活力になっています。

その他、季節ごとのイベントが多数あり、七夕の笹の設置では沢山の願いごとを書いていただいています。クリスマスには病棟の入院患者さんへサンタさんとプレゼントや病院長、看護スタッフさんのメッセージを書いたクリスマスカードをお届けします。突然のサプライズに、患者さんやお見舞いの方々もよろこんでいただけます。

ボランティア活動は地味な活動ですが、いつも温かい心、温かい言葉で優しい社会を作れるように、また、患者さんが不安なく診察を受けられるように、お手伝いして行きたいと思います。

【水曜日】花澤和子さん：2017年から参加



3年ほど前、私は何か新しいことを始めてみたいと思い、がん研ボランティア活動を始めました。そして今、この活動は私の生活の中でなくてはならない存在になっています。いったい、この活動の魅力は何でしょうか？もちろん患者さんやご家族に対して何かできることをしたいという気持ちが根底にあるのは確かです。しかし、それだけではありません。

私の活動の中心は水曜午後です。主な活動は外来図書で、本の整理整頓や拭き上げです。終了後の室内作業は図書のカバーかけ、尿瓶キャップ作り、カード作りなどです。メンバーは3人。チームワークはすこぶる良好です。

昨年からは緩和ケア病棟のお茶会の活動も始めました。直接患者さんと触れ合う貴重な機会です。たった一杯の飲み物やミニコンサートを喜んでくださる様子にこちらもうれしくなります。またイベントにも極力参加するようにしています。活動は幅広く、毎回新鮮な気持ちになります。

私はまだ経験も浅いのですが、繰り返し活動し慣れていくことで、失敗は次回からに生かされ、達成感につながります。またメンバーとの関わりはとても大切です。活動は一人ではうまくできません。みんなの協力が必要で、特にカード作りでは一緒に作り上げていく喜びを感じます。カードを手にした時の患者さんの気持ちを想像しながら、情報交換を密に楽しく作っています。これからも多くの方々と共に活動し、さらに自己発見をしながら、積極的に活動していきたいと思えます。明るく笑顔を忘れずに。

【木曜日】高橋朱美さん：2008年から参加



木曜日の『折り紙を楽しむ会』の活動に参加しています。「折り紙」と聞くと折り鶴ややつこさんを連想される方が多いと思いますが、他にも魅力的な作品がたくさんあるんですよ。

この活動では、現在3人のメンバーが初心者の方にも楽しんでいただけるよう毎週簡単な見本作品を用意して患者さんをお迎えしています。折り紙の楽しみ方は人それぞれで、見本どおりに作られる方、シールやマステを組み合わせる個性的な作品を作られる方、ご自分の好きな折り紙作品を教えてください。折り紙をきっかけに会話も弾みます。患者さんたちの笑顔や夢中になっている姿を見ることが私たちにとって何よりのご褒美です。そして折り紙メンバー以外の方たちとの作業も貴重で楽しい時間。多才な方ばかりなので刺激やアドバイスをもらえる有り難い存在です。

私が10年以上この活動を続けて来られた理由を一言で言うなら「楽しかったから」。もちろん続けるための努力や苦労もありましたが、ボランティアさんたちとのチームワークや和気あいあいとした楽しい雰囲気の中、患者さんに喜んでもらえる活動が出来て本当に幸せです。一人に出来ることは限られていますが、チームになれば可能性が広がり質も上がります。

改めてボランティアわかばで活動できることに心から感謝しています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

通常の活動以外でも、ハロウィンやクリスマスにバレンタインと季節のイベントに合わせて様々な折り紙作品で楽しませてくれる高橋さんの作品をご紹介します！



**【金曜日】月木英作さん：2007年から参加
月木ちづるさん：2009年から参加**



私たち夫婦は、主に金曜日午後ボランティア活動へ参加しています。以前がん研有明病院の近隣に住んでいましたので、地域社会とのかかわり社会貢献したく、夫は2007年より、私は2009年より活動しています。現在は電車1時間程の所より、金曜日午後活動しています。

金曜日の活動内容は、外来図書の整理消毒、室内作業（エプロンアイロンかけ、寄付図書の分別処理、図書カバーかけ前作業、各イベントに関する作業、尿カップ作りなど）、一昨年前より金曜日に固定となりましたお誕生日カード作りをしています。緻密な作業を2～3人のメンバーと種々のパーツ作りから、すべて手作業で行っています。お誕生日を病院で迎えられる患者様のお食事のトレイにつけてお出ししています。

ボランティア活動へ参加して思う事は、一年を通じて四季が肌で感じられる事です。お正月カードに始まり、桃の節句・端午の節句・七夕笹飾り・クリスマスツリー・ボランティアチャリティーショップなど、季節のうつろいを感じます。入院患者さんや外来に不安を抱えて受診に来られる患者さんに、ふとした四季を感じていただけるイベントにかかわれるボランティア活動へ参加できる事を誇りに思っています。

【フリー】中島久仁子さん：2018年から参加



私は2018年から活動しています。月曜から金曜まで会社員として働いているので、曜日、時間を固定せず、活動条件の「最低月2回以上」を目標に参加させていただいています。

「働きながらボランティア」というと、身を粉にして社会に尽くしているようなイメージですが全くそうではありません。むしろボランティア活動をすることで、心身のバランスをとっているように感じます。仕事が立て込んでいる時に「こりゃ、来週あたり休んでボランティアに行かなきゃな」と考えていたりして、自分をリセットする場にもなっています。これは始めてみなければわからなかったことです。

私の主な活動は図書ですが、コンサートや行事の準備がある日になるべく参加するようにしています。毎日オフィスの音の中にいる私にとって、病院内での作業はとても新鮮です。行くからにはなるべくお役に立とうと行事にも参加してきましたが、逆に学ぶことの方が多く、今となってはここでしかすることのない季節毎の準備を、大切に楽しんでやっています。

また室内作業においては、まるで職人のような先輩ボランティアの方々に感心しきり、クリスマスカードの完成時には達成感もありました。一から教わったボランティア活動も早や2年、私の中でこのブームはまだ続いています。この面白さの発信も考えていきたいと思っていますところです。

中島さんがボランティアメンバーにも紹介してくれた
食べて応援するボランティア「チョコボ！」
ボランティア支援室でも「ちょこっとボランティア」として
院内で物品寄贈の呼びかけをしています、
他の団体が色々工夫してボランティア活動をしていることが
わかり、とてもいい刺激になりました。



3. 外部団体のボランティア活動受け入れのご報告

患者さんやご家族、そして職員にも季節感を味わっていただけるように、毎年趣向を凝らした季節のイベントを実施していますが、開催にあたってボランティアのメンバーだけではどうしても力及ばないことがあります。プロのお力をお借りして開催したイベントとご協力いただいた企業をご紹介します。3社の皆さま、本当にありがとうございました。

七夕笹の飾付置：帝都典礼株式会社さま

(7月1日～8日)



コンサートの開催でもご協力をいただいている帝都典礼さまには、以前、大きな笹（バンブーツリー）をご提供いただいて毎年飾付しておりました。沢山の短冊の重みで笹がしなり、劣化してしまったことから、今年度は飾付方法を大幅に変更して、おみくじと同じように『短冊むすび処』を設置できれば！と一緒に新しい設置方法を考え、設営のご協力いただきました。安全に飾付できるようにと、しっかり固定するための重しと、少しでも涼しげな雰囲気を出せるようにとのお心遣いで竹の囲いまでご用意いただき、短冊の回収のお手伝いもいただきました。

Xmas ツリーの飾付：株式会社日本サービスセンターさま

(12月1日～12月26日)



コンサートやエレベーターホールに素晴らしいお花を提供してくださっている日本サービスセンター平安祭典の生花担当の皆さま。毎年、北海道から空輸で生のモミの木を取り寄せてくださっています。2メートル以上もある大きな生のモミの木には、クリスマスの雰囲気にとぴったりのセンスの良い飾付をしてください、植木鉢にも沢山の土を入れて、3人がかりで飾付をしてくださいました。お水のやり方をご指導いただき、クリスマス期間中に枯れないようにとボランティアのメンバーも交代で水やりをして、大事に飾らせていただきました。

Xmas 飾り&イルミネーションの飾付：株式会社日本テレビアートさま

(11月30日～12月25日)



3回目のご協力をいただきました日本テレビアートの皆さまには、緩和ケア病棟中庭のオリーブの木にイルミネーションの飾付していただき、清水看護部長を始め、緩和ケア病棟のスタッフ、入院患者さんやご家族にもご参加



いただいていた点灯式も行いました。この他、12階東デイルームとホスピタルストリートの新棟入口にもクリスマスツリーを飾付していただきました。社員の方が当院で治療を受けられたことがご縁で社会貢献活動として、若手社員の方を中心に幹部の方までお力を貸していただきました。

4. 千葉大学医学部附属病院との交流のご報告



前年度、千葉大病院のボランティアの皆さんをお迎えしてがん研にて見学会を開催しましたが、今年度は逆にがん研ボランティアメンバー11名と室長の奥村先生、コーディネーター柴田の合計13名で5月8日に千葉大病院を訪問させていただきました。大学病院ということもあり、高齢者医療センターや小児科や産婦人科などがん研にない診療科も多く、幅広い医療を提供され、職員、患者さんの数はもちろん、ボランティアの人数も

がん研よりも多い病院です。活動の種類も病院の特性に合わせて外来案内、入院患者さんの付き添い、院内図書館なのはな文庫の運営、やすらぎの部屋（緩和ケア病棟）での飾付等の環境整理に小児患者さんの遊び相手や読み聞かせ、ラウンジコンサートにギャラリーでの作品展示など様々な活動をされています。ボランティアコーディネーター中井さんが就任された際、当院でコーディネーター研修を担当させていただいたことがご縁でコーディネーター同士これまで度々情報交換はしていましたが、今回は実際に活動するメンバー同志が意見交換することで、大学病院とがん専門病院で環境は異なっても、ボランティア活動に対する考えは同じで、良い刺激になったのではないかと思います。

また、それぞれのボランティア活動の交換体験会を実施したい！という声もあがり双方の病院で参加メンバーを募集したところ、緩和ケア病棟と図書活動に希望がありました。千葉大病院からやすらぎの部屋で活動される甲斐さんが8月の夏祭りのお茶会に合わせて参加、がん研からは緩和ケア病棟や図書、外来活動に参加の花澤さんと、図書活動に参加の鈴木さんが11月に千葉大病院の活動を体験しました。参加メンバーからのお声をご紹介します！



- ✿甲斐さんより：皆様のフレンドリーな雰囲気涙がでるくらい嬉しかったです。違いはあっても、色々なやり方を見て勉強になりました。
- ✿花澤さんより：千葉大でもがん研でも、活動のマナー化や自己流が多くなっているの見直しが必要でないか？毎年の新人ボランティアの研修に合わせて見直しをしたいと思います。他の病院もできれば知りたい。
- ✿鈴木さんより：有意義で楽しい時間を過ごせました。皆様は本当にお優しく、作業後にお話を聞かせてくださる場を作ってください、ボランティアの皆様の貴重なお話も聞く事が出来ました。このような機会を下さりまして本当に感謝しています。



(当院のお茶会活動)



(千葉大病院のラウンジ活動)



(千葉大病院の図書活動)

5. 活動費、募金・寄付のご報告

①ボランティア活動費（年間：1,000,000円）

例年70万円の予算でしたが、2019年度は定期的なピアノの調律費用、七夕イベント用に笛を購入するため、大幅に増額となり活動別で下記の支出となりました。

②ボランティアわかば募金（金額：27,326円）

ボランティアチャリティーSHOP終了後にお買い上げいただいた品物代や懇親会での会費残額です。次年度に繰越して募金課に寄付いたします。

ボランティア支援室 2019年度活動費報告

ボランティア支援室 2019年度活動費報告						(単位:円)	
区分	活動別	予算	支出	差額	備考		
コンサート	ホスピタルコンサート BGM・ミニコンサート	80,000	85,070	-5,070	ピアノ調律、演奏者CD、写真用紙、POP材料、お茶菓子等		
外部団体受け入れ	カットボランティア等	10,000	7,776	2,224	お茶菓子、お礼品等		
わかば	図書	150,000	219,905	-69,905	カバーかけ用フィルムルックス、外来図書ワゴン車輪交換、病棟本棚入れ替え、欠巻本等（※1）		
	ソーイング	20,000	22,137	-2,137	生地代		
	折り紙会	7,000	9,856	-2,856	折り紙材料		
	外来案内(医事部サポート)	3,000	0	3,000	掃除用具（※1）		
	お茶会(緩和ケア病棟サポート)	50,000	38,085	11,915	コーヒー・紅茶・お茶・コンディメント、お菓子代（※1）		
	カードづくり(栄養管理部サポート)	30,000	68,462	-38,462	行事食、お誕生日カード用材料、クラフトパンチ		
	イベント	七夕	100,000	64,920	35,080	七夕短冊材料、お焚き上げ初穂料	
		Xmasカードづくり	30,000	7,328	22,672	Xmasカード材料	
チャリティーSHOP		50,000	56,152	-6,152	SHOP材料		
サンタクロース病室訪問		100,000	64,642	35,358	入院患者さんへのXmasプレゼント、ラッピング材料費		
ボランティア活動全般	会議費	70,000	89,338	-19,338	研修会参加費用・交流会・懇親会・ボランティア室お茶菓子		
	雑費・消耗品費	300,000	323,121	-23,121	文房具(インク代・のり・テープ)、洗剤等の消耗品（※1）		
合計		¥1,000,000	¥1,056,792	-56,792	特別研究費と統合のため、不足分は特別研究費より支出		

※1: 図書や外来案内、お茶会等で使用している消毒用のエタノール、ガーゼ、エタコット、検査用手袋の他、ボランティア室で使用しているペーパータオルやティッシュ、手指用消毒アルコールは、購買課からの支給のため、上記支出には含まない。

③ボランティア支援室募金箱（募金箱：2,232円）

ボランティア室内に設置の募金箱に集められた募金です。1円玉貯金をしてくださった方からの募金も含まれ、年度末に募金課にお渡ししました。

④古本募金（冊数：2,510冊／金額：53,831円）

2018年に募金課が『古本募金』の活動を始めたのを機に、10年間ボランティア支援室だけで対応していたブックオフへの古本買取依頼を古本募金に統合しました。古本募金へ寄贈される方も多く、ボランティア図書への寄贈数は大幅に減少しましたが、募金課に届けられる図書の中でボランティア図書に活用できるものは譲り受けています。古本募金を実施しているチャリボンに直接送付される方も多く、ボランティア支援室としての数は減少していますが、古本募金によるがん研への寄付金額は増えているようです。（※参考前年度の冊数：3,150冊／金額：70,492円）

⑤寄付金（金額：256,700円）

ボランティアチャリティーSHOPの売上金を寄付しました。年末に開催した忘年会にて、ボランティアわかばの花澤さんより佐野病院院長へ寄付金をお渡ししました。これまでの寄付金総額は **4,713,900円** となりました。



6. ボランティア活動に寄せられたご意見

投書委員会の報告によると、2019年度に院内の投書箱に寄せられたご意見は694通、そのうち、感謝の投書は147通あったとのこと。ボランティア活動へのご意見も9通いただきましたが、この一年はすべてが感謝のご意見でした。また、投書箱以外にも患者さん、ご家族、ご遺族から直接お手紙もいただき、年間21通の感謝のメッセージが届きました。中にはがん研のボランティア図書がなぜか？他の病院の図書に紛れてしまったようで、病院図書室の司書の方から図書を返却していただく際に、嬉しいメッセージも併せていただきました。ご意見が届く度にボランティア室でも掲示させていただきましたが、改めてこちらでもご紹介させていただきます。

- ☞ 四季折々の飾付に、心遣いを感じます。ひな人の飾りに癒され、七夕の短冊の皆さんの思い、各種ボランティア活動の充実、素晴らしいと実感しています。
- ☞ 入院中に誕生日を迎えました。朝食のトレイにバースデーカードが！気持ちが明るくなりました。お心遣い、ありがとうございました。
- ☞ ボランティアの「折り紙」に参加させていただきました。入院中、子供にも会えず、時間を持て余していましたが、院内で掲示板を見て思い切って参加してみました。折り紙を教えてくださいだけでなく、話を聞いてくださり、子供へのお土産として折り紙を折ってくださったり、とてもよくしていただきました。すべてボランティアでやってくさっていることに、頭が下がります。素敵な時間をありがとうございました。
- ☞ クリスマスのお祝い、素晴らしかったですね。これまでに他の病院にも入院しましたが、病院でクリスマスを迎えたのは今回が初めてです。そんな寂しい気持ちを吹き飛ばすように、真っ赤なサンタさんや可愛いトナカイさんが入院患者ひとり一人にクリスマスカードとプレゼントを持って来てくださいました。不覚にも涙が止まりませんでした。ボランティアの皆さんが中心に廻ってくださったとのこと、是非とも毎年続けてくださいね。メリークリスマス！本当にありがとうございました。
- ☞ 図書コーナーをよく利用させていただきました。自宅にありました本を送らせていただきます。患者さんの心に残る本になれば幸いです。ボランティアの皆さまもどうかご自愛ください。
- ☞ 貴院のボランティア図書が当院の図書に紛れていましたので、ご返送いたします。以前、患者さんから、がん研のボランティア図書がいかに素敵で楽しみであったか、教えていただいたことがございました。このような形ではございますが、拝見することができ大変勉強になりました。
- ☞ 直接お会いしてお礼を申し上げる機会のない、ボランティアの方々へ感謝の気持ちをお伝えしたいと思い、お手紙を差し上げました。2階を車椅子で移動中のこと、ホールの吹き抜けから歌声が聞こえてきました。演奏ボランティアの方が観客と合唱されていることがわかり、辛い処置中でもこの時の♪「春のうららの隅田川～」というフレーズを心の中で繰り返し思い出すことで苦しさを何とか凌ぐことができました。美しい音楽に心が救われました。
その他の活動も沢山あり、ボランティア活動のことを先生や看護師さんにお話したところ、活動の詳細についてはあまりご存知ないようでした。皆さんにもっとよくボランティア活動のことが伝わればよいと願っております。ボランティアの方々の生き方に触れることができ、私も常に患者であるばかりではなく、生活の中のある場面では何らかの形で人のお役に立ったり、支える側に回りたい…と強く願うようになりました。

病院から感謝の気持ちを込めて…

日頃のボランティア活動に病院として感謝の気持ちをお伝えしたいと、以前はボランティア活動にご協力いただいているホスピタルコンサートの出演者、演奏ボランティア、わかばのメンバー、企業の方をお招きして、理事長や病院長はじめ、病院幹部スタッフも参加して年末に「感謝の会」を開催しておりました。ですが、年末の忙しい時期ということもあり、参加してくださるボランティアの方が少なく、職員のほうが多くなってしま…という状況になってしまったため、ここ数年開催できずにおります。2010年に有明での活動開始から5周年、そして、2015年には15周年を迎えた際には、ボランティアのOB・OGの方にもお声をかけて大きな記念の会を実施しましたが、最近は大規模な会の開催ではなく、年に数回ささやかな交流会を開催する他、病院から手作りのクリスマスカードやプチギフトをお贈りしたり、一年間の活動をまとめた『活動報告書』を作成してお届けしています。

2019年度は、清水副院長兼看護部長から心のコもったメッセージに、『私たちの活動がちゃんと伝わっていると実感できた』との嬉しいお声もいただきました。また、バレンタイン前後にはボランティア支援室より、ほんの気持ちですが、感謝のチョコレートをプレゼントさせていただきました。

(清水副院長兼看護部長からのクリスマスカード&メッセージ)



ノーマン・ロックウェルというアメリカのイラストレーターの絵が好きです。お気に入りのひとつは、出発前のサンタクロースが「good boy」というタイトルのノートを手にとり、大きな地球儀からgood boyの住む場所を虫眼鏡で一糸懸命探している絵です。どんな子が今年のgood boyだろうか、どんなことをしたらgood boyに選ばれるのだろうか…と大人になってからも毎年考えます。

いつもここで一旦切なくなるのですが、目立たないことも丁寧に誠実に懸命にやってきた…そんな子を見つけるためにあの大きな虫眼鏡があるのだと、祈りの気持ちも込めながら毎年思い直します。

ボランティアの皆さま、今年も本当にありがとうございました。サンタさんに逢われたらぜひともよろしくお伝えください。2019年 クリスマスに…

(ボランティア支援室からのバレンタイン感謝チョコ&メッセージ)



すみれは道端にひっそりと咲き、春を教えてくれる可憐な花。花言葉は「謙虚」「誠実」「小さな幸せ」。幸せな人生を送る一つの秘訣は、小さな喜びを継続することです。紫のすみれの花言葉は「愛」、黄色いすみれの花言葉は「つつましい喜び」、ピンクのすみれの花言葉は「希望」、すみれの花言葉には、全体の花言葉と色別の花言葉があります。

すみれの花には、日本古来の大和なでしこにぴったりの花言葉が使われています。日本の全土で見られる花ですから日本に馴染み深いのかもかもしれません。

小ぶりな花で春の訪れを感じさせるため、すみれを見つけた時には「あ、すみれだ！」と、ほっこりした小さな幸せを感じますよね。主張しすぎないその姿勢が、愛される秘密なのかもしれません。私たちのボランティア活動も“すみれの花”のように感じていただけるように、謙虚な気持ちを忘れることなく活動に臨みましょう！！

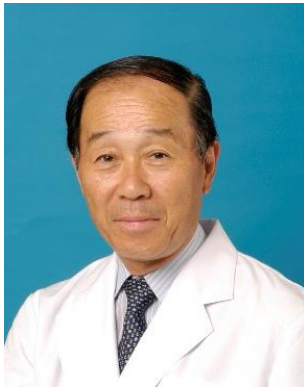
(これまでの活動報告書)

2011年より、一年間に実施したボランティア活動をまとめた「年間活動報告書」を作成しています。

実施している活動は多岐にわたり、素晴らしい活動が数多くあります。参加している活動や曜日によって様々ですので、メンバー同志でも情報を共有できれば！という思いからスタートし、活動を職員にも理解してもらえるように、そして患者さんやご家族にもこんな活動がありますよ！とご紹介し、更にボランティアに参加を希望される方に活動の様子を知ってもらえるようなツールになればと願って、毎年手作りで作成してきました。今回で9号目になりました！



「がんばれ！ がん研有明病院ボランティア」



名誉院長 武藤徹一郎

大塚時代から40年、有明移転から15年、長年にわたる「がん研ボランティア」の活動に心から敬意と感謝を捧げます。

病院におけるボランティア活動の歴史は、欧米に比して決して長くはありません。私が東大病院で組織的に「病院ボランティア」を始めた頃、(平成6年)は、東大病院にボランティアが入ることが新聞に報道されるほど珍しいことでした。当時、ボランティア活動が展開している病院は聖路加病院ぐらいで他の大学病院にはまだありませんでした。

その後の経験から学んでことですが、ボランティア活動の要は優れたコーディネーターの存在です。がん研でも代々優れたコーディネーターの存在の働きのお蔭でここまで成長し継続してこられたのでした。

ことに最近の活動ぶりはめざましく、わずか30数名のメンバーで広い分野にわたって活動されているのは驚嘆に値します。四季折々の催し物(クリスマス会、桃の節句、端午の節句、七夕など)、定期的に行われる音楽会、BGM演奏、お茶会、ソーイング、折り紙の会などなど。その活動の広さ、多様さ、アイディアの豊かさは驚くばかりです。患者さんたちも大変喜んでおられているようで、その感謝の笑顔がボランティアメンバーの新しいモチベーションになっているように思われます。少ない人数で大変だとは思いますが、一度ともした灯を絶やさぬよう、力を合わせて今後とも活動を続けられますよう宜しくお願いいたします。



－病院長時代の武藤先生－



(移転時のボランティア研修会)



(ホスピタルコンサート)



(クリスマスイベント)

－名誉院長となられてから－



(5周年記念の会)



(10周年記念の会)



(ボランティア交流会)

がん研でのボランティアの基を築き、病院スタッフへもボランティアの理解を深めるよう呼びかけてくださった武藤先生。2019年度をもってがん研究会の理事は退任されましたが、名誉院長として今後も私たちの活動を温かく見守ってくださいます。がん研ボランティアの“ファウンダー”として、誰よりも「ボランティアの心」を理解してくださる、とても大きな存在です！！

ボランティア支援室のご紹介

ボランティア支援室では、病院としてボランティアの方をお願いしたいこととボランティアを希望される皆さんとの間を繋ぐために専任の職員としてボランティアコーディネーターを1名、その他、兼務として若手職員を配属しています。2019年度は、総合職の新入職員が1名のみのため、2年目となった職員3名が前年度から継続してボランティア活動を支援させていただきました。

■ スタッフ紹介

室長	院長補佐兼中央手術部長	奥村 栄
係長	ボランティアコーディネーター／社会福祉士	柴田かおり
兼務（2年目）	総務部総務課	石黒 優香
〃	人事部人事厚生課	河西 由美
〃	医事部入院医事課	吉田 健人
兼務（新入職員）	医事部入院医事課（2019年4月～7月）	石倉 大輝

■ 業務分掌

1. ボランティア活動の支援に関する事項
2. ボランティアの募集に関する事項
3. 職員へのボランティア活動の啓発活動に関する事項

■ がん研有明病院ボランティアの目指すもの

- ・入院、通院されている患者さんが院内で快適に過ごすことができるように支援します
- ・患者さんが安心して治療できる環境づくりの担い手をなります
- ・患者さん、ご家族と病院や社会との間をつなぐ架け橋となります
- ・入院生活に季節の風をもたらします
- ・院内のサービスの向上と充実につながるよう陰ながらサポートします

『～陰ながら・さりげなく・心を込めて～』

■ がん研有明病院ボランティアのシンボルマーク



がん研といえば、カニのマークでお馴染みですが、ボランティアのシンボルマークもこれに因み、カニのハサミがボランティア（Volunteer）のVマークを象り、2つのカニのハサミは手と手を取り合い、助け合いをイメージしたシンボルマークです。有明での活動5周年を記念して2010年に誕生しました。



JAPANESE FOUNDATION
FOR CANCER RESEARCH